

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	シャシ整備実習2		
科目基礎情報						
開設学科	自動車整備科	コース名	なし	開設期		
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数		
単位数	2単位	授業形態	実習			
教科書/教材	適時レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料などは、授業中に指示する。／実習車、実習教材など					
担当教員情報						
担当教員	坪裕光、西野佑吾、須藤竜二、和田浩、増澤健、赤岡秀紀	実務経験の有無・職種	有・一級自動車整備士、自動車整備士			
学習目的						
「シャシ（エンジン以外）とは何か」という自動車のシャシ構造における問い合わせ理解する。自動車の仕組みを知り、基礎的な自動車整備技術を身につけるために、自動車のシャシ関係の基礎知識・基礎構造・基礎整備を学び、オートマティック・トランスミッション等、動力伝達装置の内部構造や法定点検の作業手順を理解する。点検整備の共同作業を通じてチームワーク（協働）の重要性を理解する。自動車整備の基本である法定点検作業を身に付けると同時に、自動車整備業界で重要視されている安全作業を学ぶことを目的とする。						
到達目標						
自動車のシャシ関係の基礎知識・基礎構造・基礎整備を身に付け、自動車整備の基本であるブレーキ装置やタイヤ・ホイールの点検整備を正確に行えるようになると、ブレーキ装置や動力伝達装置及びタイヤ・ホイールの点検整備を通じて正しい工具の取り扱いを身につけること、シャシ構造の法定点検の手順と意味を理解すること、実習を通じてチームワークを学び協調性を身につけること、4Sの意味を理解し作業環境を整えることの重要性から学び、安全で正確な点検整備作業が出来るようになることを目標とする。						
教育方法等						
授業概要	自動車のシャシ関係の整備実習を通して、共同作業を行うことでチームワークを学び、自ら効率よく作業することを繰り返し練習することで主体性を持って学べるようになりますことを目指します。結果として、自動車の基本的なシャシ構造理解し、ブレーキ装置及び、タイヤ・ホイールの点検整備が出来るようになる。事前学習、復習をしっかりと行い、安全で正確な点検整備作業を身に付ける。					
注意点	学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。教員の指示に従い、勝手な作業を行わないこと。不明な点は教員に確認し、理解を深める努力をすること。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は補習が完了するまで評価を行わない。また出席確認時に遅刻の場合4時間の欠席となる。					
評価方法	種別	割合	備考			
	試験・課題	80%	試験と課題を総合的に評価する			
	小テスト	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する			
授業計画（1回～10回）※実習内容や順番は変更する可能性がある						
回	授業内容	各回の到達目標				
1回	ブレーキ装置①（グループワーク）	様々な自動車のブレーキ装置の点検整備技術を身に付ける				
2回	ブレーキ装置②（グループワーク）	実車を用いてブレーキ装置のオーバーホール技術を身に付ける。				
3回	トランスミッション①（グループワーク）	実車を用いて自動車のトランスミッションの取り外し方法を理解する				
4回	トランスミッション②（グループワーク）	実車を用いて自動車のトランスミッションの取り付け方法を理解する				
5回	トランスミッション③（グループワーク）	実車を用いて自動車のトランスミッションの点検及び調整方法を理解する				
6回	電動パワーステアリング（グループワーク）	電動パワーステアリングの脱着方法を理解する				
7回	A B Sシステム（グループワーク）	A B Sシステムの点検及び故障診断方法を理解する				
8回	タイヤ・ホイール（グループワーク）	タイヤの分解及び組み付け方法を身につける				
9回	サスペンション（グループワーク）	実習車を用いてサスペンションの分解及び組み付け方法を身につける				
10回	総合整備作業（グループワーク）	自動車のシャシ構造における点検整備作業を身に付ける				